

3. ストーカー行為継続の有無別にみたストーカー行為の特徴

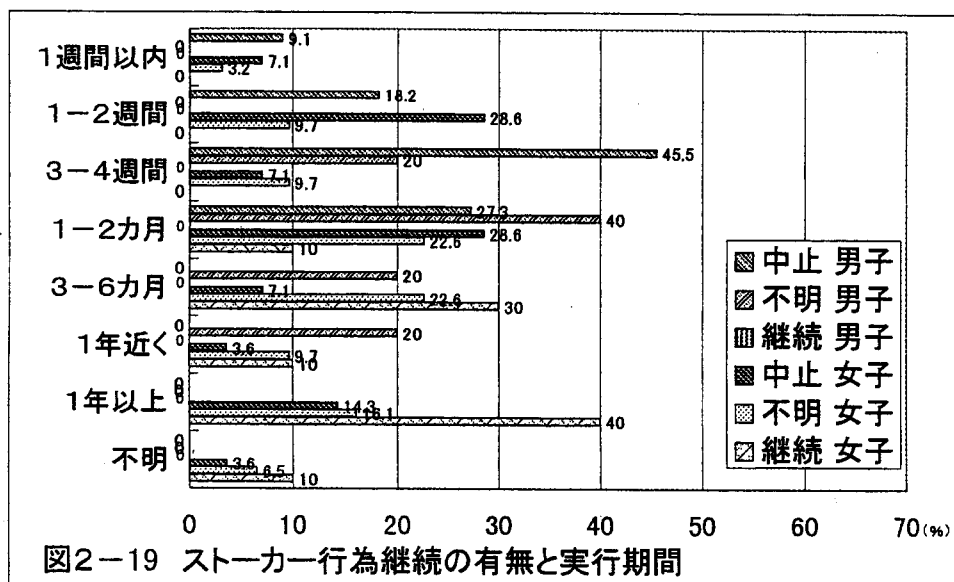
犯人がストーカー行為をやめた場合を「中止」、止めたかどうかわからない場合を「不明」、止めない場合を「継続」とし、それらの3カテゴリーと性別による集計を実施した。

① ストーカー行為継続の有無とストーカー行為の実行期間

自身が異性からのストーカー被害を受けた人の結果が図2-19である。

男子でストーカー行為が中止されたとする人は、ストーカー実行期間が「3-4週間」を中心に多く、1カ月以内の短期間にストーカー行為が中止されている割合が高い。また、継続してストーカー行為を受けている割合はほとんどない。女子でストーカー行為が中止されたとする人も「1-2週間」や「1-2カ月」が多いが、ストーカー行為を止めたかどうか不明とする割合は、「1-2カ月」から「3-6カ月」に多く、ストーカー行為を継続しているとする割合は、「3-6カ月」から「1年以上」で高い。

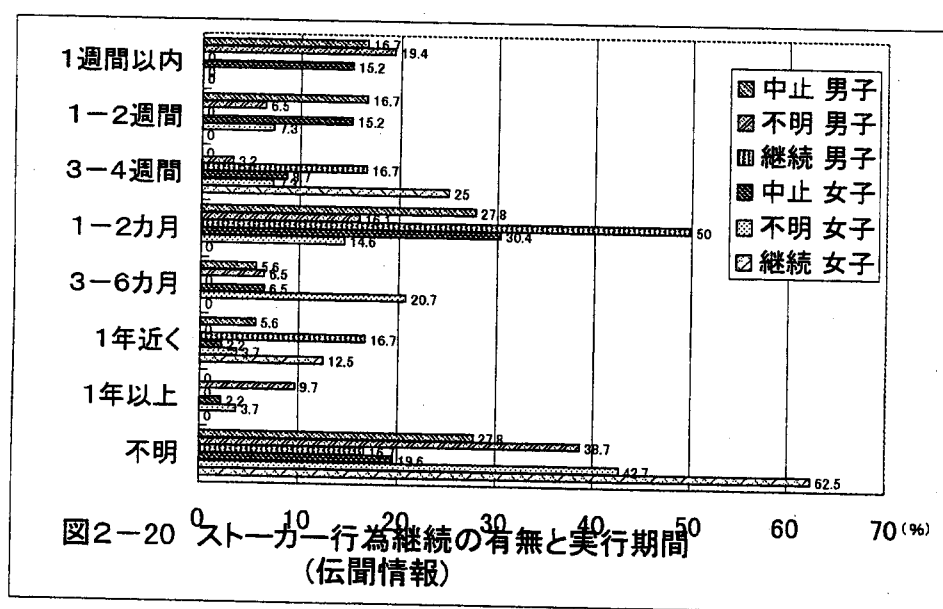
男女ともに、ストーカー行為の中止は2カ月以内の短期間に行われている場合が多いが、女子の場合には、長期にわたって継続している割合が高い。止められない結果として継続されている可能性は高いが、短期間のうちであれば止めさせることができる可能性が高いとも考えられる。



自身はストーカー被害を受けず、親しい友人から被害を聞いた伝聞情報による結果を示したグラフが図2-20である。伝聞情報であるため、全体的に不明が多いが、男子でスト

一カー行為が中止されたとする人は、「1-2カ月」で最も多いが、継続も同じく「1-2カ月」で最も多い。女子でストーカー行為が中止されたとする人も「1-2カ月」で最も多いが、継続は「3-4週間」と「1年近く」が多い。

ストーカー行為に関する伝聞情報においても、男女ともに1-2カ月という短期間でストーカー行為が中止される割合が高いが、男女ともに1年近く継続されているとする割合も15%前後と多めである。1-2カ月以内に止めさせることができないと、その後も継続される可能性が高いと考えられる。



② ストーカー行為継続の有無とストーカーとの親しさ

自身が異性からのストーカー被害を受けた人の結果が図2-21である。

男子において「継続」はないが、「以前親密な関係だった」「親密ではないが知り合いだった」「知り合いでない」のいずれにおいても「中止」が多い。女子に関しては、「知り合い」で「中止」が最も多く、「継続」と「不明」は「知り合いでない」で最も多い。この結果は、「以前親密な関係だった」人によるストーカー行為は止めやすいが、見ず知らずの人からのストーカー行為が止めにくいことを示していると考えられる。

自身はストーカー被害を受けず、親しい友人から被害を聞いた伝聞情報による結果を示したグラフが図2-22である。

グラフの形は、本人が被害を受けた場合とほぼ同様であるが、「親密でないが知り合いだった」で男子の「中止」と女子の「継続」が、「知り合いでない」で男子の「継続」がそれぞれ本

人の被害経験の場合よりも多めである。

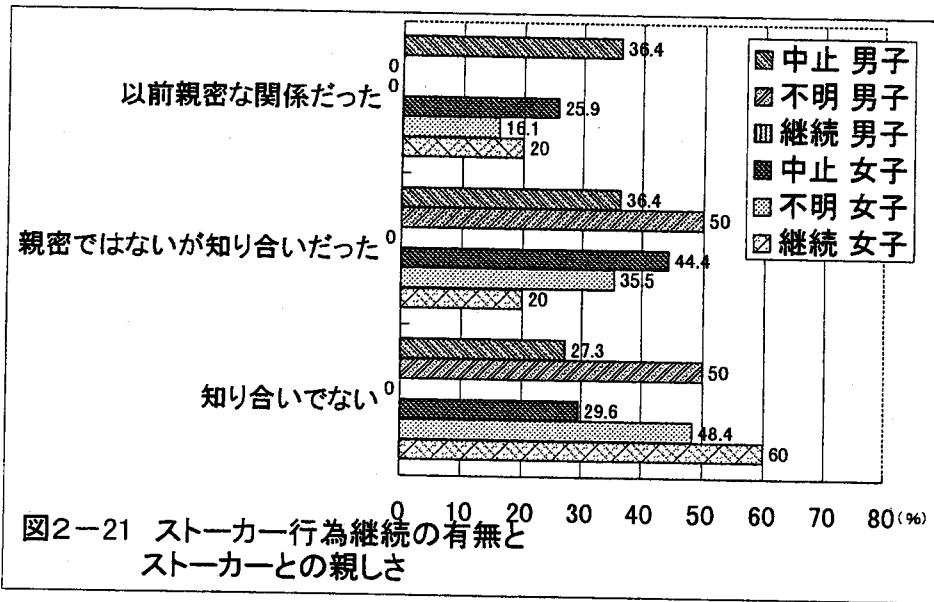


図2-21 ストーカー行為継続の有無とストーカーとの親しさ

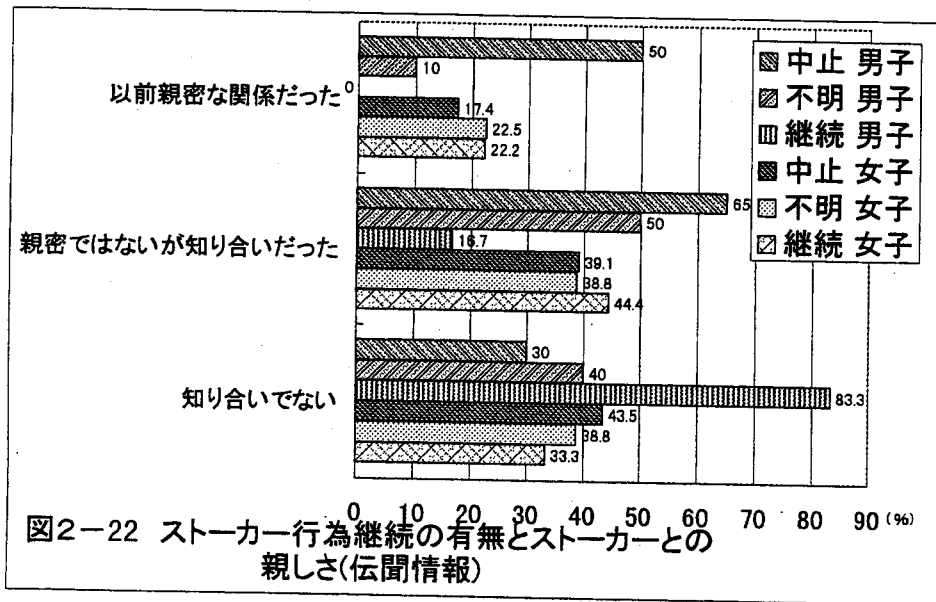


図2-22 ストーカー行為継続の有無とストーカーとの親しさ(伝聞情報)

③ ストーカー行為継続の有無と中止理由・きっかけ

自身が異性からのストーカー被害を受けた人の結果が図2-23である。「中止」に注目すると、男子では「全く無視したから」が、女子では「はっきり断ったから」と「全く無視したから」が多い。

自身はストーカー被害を受けず、親しい友人から被害を聞いた伝聞情報による結果を示

したグラフが図2-24である。「中止」に注目すると、「全く無視したから」と「何となく止めた」が、女子では「全く無視したから」と「はっきり断ったから」が多い。本人がストーカーを受けた場合と同様の結果が得られている。

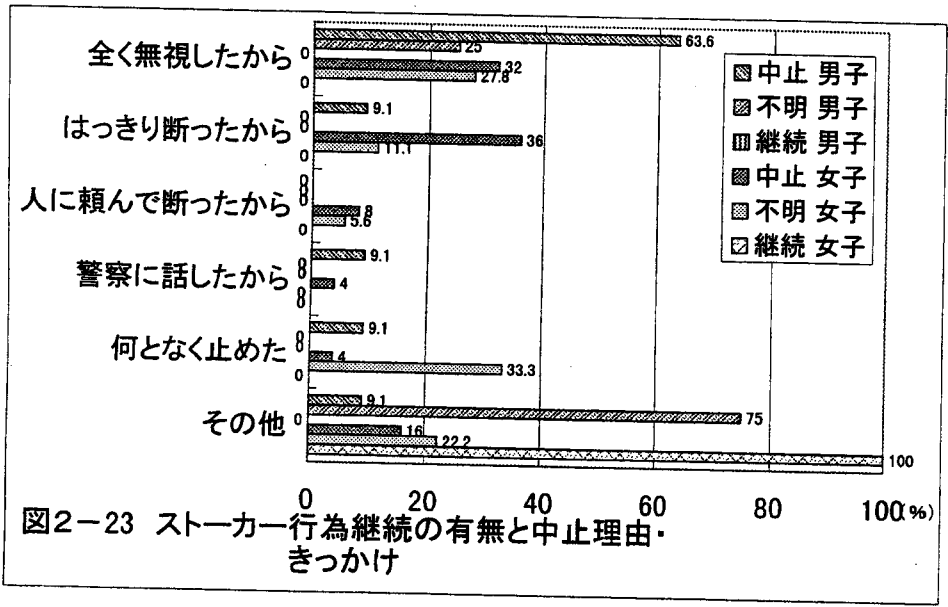


図2-23 ストーカー行為継続の有無と中止理由・きっかけ

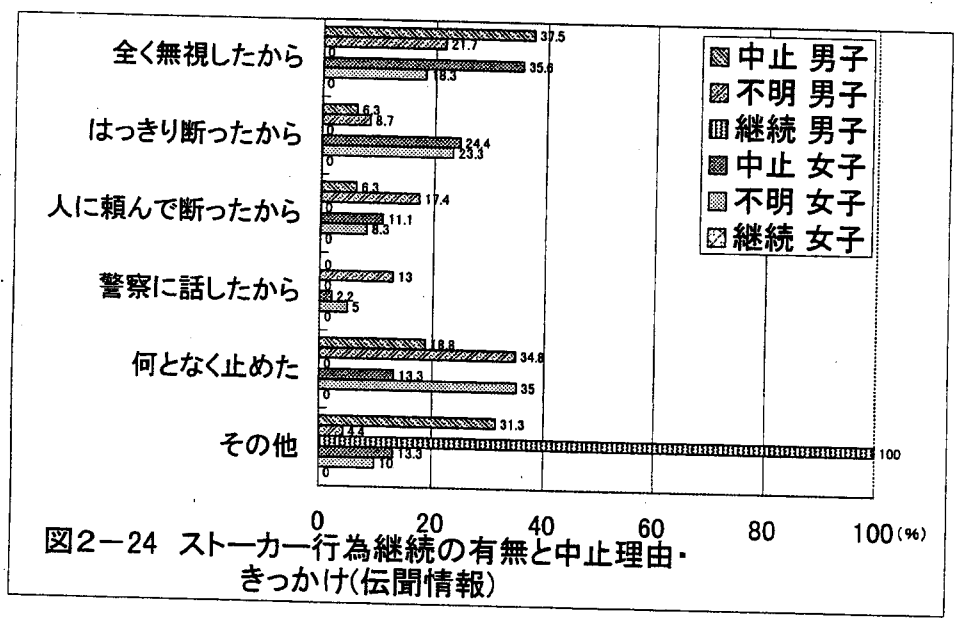


図2-24 ストーカー行為継続の有無と中止理由・きっかけ(伝聞情報)